



衣川 寛介

### 『両松寺の梵鐘』

但馬には江戸幕府が直接支配した生野銀山・明延銅山・中瀬金山という有名な鉦山があります。江戸時代から但馬三山と呼ばれた日本有数の鉦山です。中でも明延鉦山は、明治42年に錫鉦脈が発見され、最盛期には国内の錫の90%以上を産出しました。昭和56年の出鉦量は月に25千トンもあり、作業人員は348人でした。昭和62年、円高のために錫鉦脈を残しながら閉山しました。

豊臣秀吉の時代に作られた梵鐘が明延の両松寺にあります。梵鐘の銘文には、「但州養父郡大屋庄明延銀山」「文禄五丙申菊月」などの文字があります。梵鐘の大きさは、高さ約110cm、口径約85cmです。養父市では最も古い重要な梵鐘です。文禄5年は西暦1586年で、豊臣秀吉から任命された八木城主の別所吉治が、代官として明延銀山を支配していました。

明延鉦山はもともと銅や銀を多く産出していました。江戸時代の古文書があります。但播州諸山其外旧記には、明延は「別所豊後守領分にて候」、慶長5年(1600年)「より生野奉行間宮新左衛門支配なられ」「それより式十枚間歩、谷床間歩、金木谷、白岩、諸所に銀山出来す」と記録しています。(以下略)

鋳物師(いもじ)のこと、5世紀頃、朝鮮半島からの渡来人によって様々な技術が伝えられました。その一つが鋳物師です。彼らは鉄や銅の鋳造を仕事とする技術者で、律令制下では「雑工戸(ぞうくこ)」として大蔵省の典鋳司(いものつかさ)に配置されました。また諸国に置かれた鋳銭司(じゅせんし)で銭の鋳造(無文銭・和銅銭等)、あるいは諸寺院の仏像・仏具の鋳造にも携わりました。聖武天皇の時代、盧舎那仏造営(奈良大仏)がありましたが、その時の鋳造技術者として大鋳物師の柿本小玉、高市連真麻呂の名が記されています。

河内鋳物師(かわちいもじ)は、河内国丹南郡を本拠にしていた金属鋳造の技術者およびその集団で、丹南鋳物師(たんなんいもじ)とも呼ばれます。活動の最盛期は平安時代後半から室町時代前半で、日本各地に先進的な鋳造技術を広める働きをしました。姫路では秀吉の時代から明治時代まで続いた芥田家が代々五郎右衛門を襲名し、有名でした。

**この梵鐘は以下の大工と小工によって、明延の銅を使って作られました。**

**大工 但州養父石和住人藤原朝臣渡辺与三右衛門尉家次**

**小工 播州飾東郡野里六良左衛門丞藤原朝臣家定**

**小工は播磨国鋳物師総管職、野里に住む芥田五郎右衛門の配下、小野六郎左衛門です。竜頭は三山形と呼ばれる芥田家特有のものです。**

ホームページ<http://www.city.yabu.hyogo.jp/3512.htm>  
より一部改変し転載させて頂きました。

養父市教育委員会 社会教育課

所在地/〒667-0198養父市広谷250-1

電話番号/079-664-1628 FAX/079-664-1147

E-mail/ shakaikyoku@city.yabu.lg.jp



両松寺の前庭にある鐘楼



三山形の竜頭

来て!見て!ふれて!

ふしぎ体感

『鉄のふしぎ博物館』

